S I A S R　(Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況 (2008.9.8 現在)

埼玉県で分離され衛生研究所で確認された 3 類感染症である腸管出血性大腸菌は、2008 年 9 月 8 日現在で 70 株です。感染者の内訳で見ると下痢腹痛などの症状を呈した有症状者から分離されたのが 47 株、業態者検便や接触者検便での無症状者からの分離が 23 株でした。発症日で見た月別の分離数では、5 月まで 7 株、6 月に 7 株、7 月に 6 株と分離株数の増加は見られませんでしたが、8 月に入り 27 株と急増しました。この検出数の増加は、8 月中旬に O157:H7(VT2 産生)による県南部のグループホームにおける集団感染例や、8 月中旬から下旬にかけて県東部の保育園での O26:H-(VT1 産生)による集団感染例が影響しています。分離血清型は O157 が最も多く、O157:H7 が 41 株、O157:H-が 3 株でした。その他の血清型で複数分離されたものは O26:H-が 16 株、O26:H11 が 4 株、O121:H19 が 2 株です。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2008.9.8 現在)

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	17
O157:H7	VT2	23
O157:H7	VT1	1
O157:H－	VT1&2	3
O26: H11	VT1	4
O26: H－	VT1	16
O121: H19	VT2	2
その他		4
合計		70

衛生研究所では、分離株数の多い O157:H7 についてはすべての株を、その他の血清型についても必要に応じて、PFGE 法を用いた DNA 切断パターンによる型別を行っています。9 月 8 日現在、O157:H7　41 株中 39 株の型別が終了しており 20 の型に分けられています。8 月の O157:H7（VT2）と O26:H-(VT1 産生)による集団感染例ではそれぞれの PFGE パターンは一致していました。一方、散発的発生事例間でも、全く同一の PFGE パターンを示す複数の感染例が存在し、共通の感染源が示唆されましたが、まだその究明には至っていません。

今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。